

## 巣状分節性糸球体硬化症（Focal segmental glomerulosclerosis : FSGS）

---

ネフローゼ症候群や蛋白尿を呈する疾患の一つで、糸球体の一部の血管が硬くなっている所見がみられるものを言います。

【原因】原因がわからない「特発性」と明らかな原因のある「二次性」があります。二次性の場合、遺伝子の異常、ウイルス感染、特殊な薬剤、肥満などがあります。

【診断】腎生検をして診断します。

【治療】特発性の場合、ステロイドだけで治療できる場合もありますが、効果がない場合には免疫抑制薬を併用します。

尿蛋白の程度が軽い場合には、降圧薬（血圧を下げるお薬）を使用することもあります。

二次性の場合、その原因によって治療法が異なります。詳しくは、主治医の先生とご相談ください。

【予後】治療で尿蛋白が消えた場合の予後は良好で、透析や移植が必要なほど腎臓の働きが悪くなることはありません。

一方、多い尿蛋白が出続けた場合には20年で半数以上の患者さんが透析や移植が必要になります。

また、移植をした場合にも再発する割合が高く15-55%が再発すると言われています。